



## 令和5年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和4年9月8日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東  
コード番号 9636 URL <https://www.kin-ei.co.jp/>  
代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)田中 耕造  
問合せ先責任者 (役職名)執行役員経理部長 (氏名)藤下 修 (TEL)06(6632)4553  
四半期報告書提出予定日 令和4年9月9日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 令和5年1月期第2四半期の業績(令和4年2月1日～令和4年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年1月期第2四半期	1,624	12.9	101	9.1	104	△1.2	84	83.4
4年1月期第2四半期	1,438	19.5	93	—	106	—	46	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年1月期第2四半期	30.47	—
4年1月期第2四半期	16.61	—

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年1月期第2四半期	5,743	2,278	39.7
4年1月期	5,770	2,221	38.5

(参考) 自己資本 5年1月期第2四半期 2,278百万円 4年1月期 2,221百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
5年1月期	—	0.00	—	—	—
5年1月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 令和5年1月期の業績予想(令和4年2月1日～令和5年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,300	10.0	160	18.4	160	0.6	110	1.8	39.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	5年1月期2Q	2,821,000株	4年1月期	2,821,000株
② 期末自己株式数	5年1月期2Q	32,493株	4年1月期	32,428株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	5年1月期2Q	2,788,526株	4年1月期2Q	2,788,572株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(四半期損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、持ち直しの動きがみられる一方で、期間の終わりには新型コロナウイルスの新規感染者が急増したほか、原材料価格の上昇、供給面での制約などの下振れリスクが増すうちに推移しました。

この間、当社におきましては、当社施設を通じた新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、種々の対策を徹底、継続したうえで集客に努め、収入の確保を目指しました。2月から3月にかけて適用されたまん延防止等重点措置や7月以降の新規感染者の急増等の影響があったものの、売上高は、「あべのアポロシネマ」を臨時休館した前年同期に比較して12.9%増の1,624,717千円となりました。さらに、部門別業績管理の徹底により経費全般に亘って鋭意抑制し、営業利益は9.1%増の101,725千円、経常利益は1.2%減の104,970千円、四半期純利益は83.4%増の84,963千円となりました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、映画では、「名探偵コナン」 「トップガン マーヴェリック」 「余命10年」 「映画 五等分の花嫁」 「シン・ウルトラマン」 「劇場版 呪術廻戦0」 「ファンタスティック・ビーストとダンブルドアの秘密」 「SING/シング：ネクストステージ」 「映画 おそ松さん」 「キングダム2 遥かなる大地へ」などを上映して観客誘致に努めました。また、新型コロナウイルス感染拡大を予防し、安全・安心に映画をご覧いただけることを第一に考え、従業員の健康管理を徹底し、お客様にマスクの着用、消毒液の使用及び体温の測定をお願いするとともに、抗ウイルス・抗菌加工済みの座席やドア取っ手などのほか、館内の換気、定期的な消毒を行うなど感染予防対策を徹底しました。その上で、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」「てんしば」などの周辺施設と連携し、タイアップイベントを積極的に行うなど販売促進活動に注力しました。この結果、部門全体の収入合計は623,155千円(前年同期比41.3%増)となり、営業原価控除後では21,967千円のセグメント利益(前年同期セグメント損失14,250千円)となりました。

不動産事業部門におきましては、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、アポロ・ルシアス両ビルにおける抗ウイルス・抗菌加工済みの共用部の消毒を定期的実施するほか、テナントへの情報提供に努めてまいりました。また、アポロビルにおいて、空調設備の整備、新規テナント誘致に伴う区画整備等の諸工事を実施し、ビルの機能強化を図りました。ルシアスビルにおいても、空調制御設備、特高受電設備、蓄電池設備機器の更新などに計画的に取り組み、より安全・快適なビルづくりを推進しました。また、賃貸収入の確保に向けて、空室部分への後継テナント誘致に注力しましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う空室発生や賃料減額により、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めた部門全体の収入合計は1,001,561千円(前年同期比0.4%増)となり、営業原価控除後では223,659千円のセグメント利益(前年同期比12.3%減)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、固定資産の減価償却等により前期末に比較して26,785千円減少し、5,743,909千円となりました。

負債は、設備関係未払金の減少等により、前期末に比較して84,068千円減少し、3,465,110千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して57,283千円増加し、2,278,798千円となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を上回ったため、前事業年度末に比較して40,820千円増加し、125,345千円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動で得られた資金は、税引前四半期純利益の計上及び減価償却費等により343,770千円となりました。前年同期と比較しますと、税引前四半期純利益の増加等により14,539千円収入額が増加しております。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で使用した資金は、固定資産の取得等により237,367千円となりました。前年同期と比較しますと、短期貸付金の増加額が前年同期を下回ったこと等により133,380千円支出額が減少しております。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で使用した資金は、長期借入金の返済等により65,582千円となりました。なお、前年同期は収入超過であったため、財務活動で使用した資金は前年同期と比較して増加しております。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、新型コロナウイルスの感染収束には依然として見通しが見えない状況が続くものと予想されます。当社といたしましては、引き続き当社施設を通じた感染拡大を防止するため、種々の対策を徹底、継続してまいります。その上で、シネマ・アミューズメント事業部門では、魅力ある作品の上映に努めるほか、安心・快適に映画を楽しんでいただけるよう計画的な設備更新に取り組んでまいります。さらに、周辺施設との共同販売促進策を積極的に推進し、あべの・天王寺エリア唯一の映画館「あべのアポロシネマ」への集客と収入の確保を目指してまいります。また、簡単・便利な「チケット予約システム」、格安で映画をご覧いただける映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」をアピールし、誘客に努めます。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持・向上による賃貸収入の確保を図るのとはもとより、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めるなど、ビルのさらなる機能向上を図るとともに、省エネルギー化にも十分に配慮し、より安全で快適な環境づくりに努めてまいります。加えて、「あべのアポロシネマ」との連携を推進し、一層の集客に注力してまいります。

通期の予想につきましては、売上高は3,300百万円（前期比10.0%増）、営業利益は160百万円（前期比18.4%増）、経常利益は160百万円（前期比0.6%増）、当期純利益は110百万円（前期比1.8%増）となる見込みであります。なお、令和4年3月17日に「令和4年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高を60百万円減額し、当期純利益を20百万円増額しております。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年1月31日)	当第2四半期会計期間 (令和4年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	84,524	125,345
売掛金	118,700	-
売掛金及び契約資産	-	93,777
商品	3,455	3,955
短期貸付金	514,669	609,089
その他	51,644	54,304
貸倒引当金	△771	△680
流動資産合計	772,223	885,792
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,848,082	2,731,058
機械及び装置（純額）	29,159	26,002
工具、器具及び備品（純額）	98,684	79,914
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	-	274
有形固定資産合計	4,099,674	3,960,998
無形固定資産	59,643	45,006
投資その他の資産		
差入保証金	801,958	815,746
その他	37,194	36,365
投資その他の資産合計	839,153	852,112
固定資産合計	4,998,471	4,858,117
資産合計	5,770,694	5,743,909
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	102,917	120,679
短期借入金	450,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	75,000	75,000
未払法人税等	42,552	44,063
賞与引当金	5,400	5,300
その他	582,754	517,712
流動負債合計	1,258,624	1,212,755
固定負債		
長期借入金	393,750	356,250
退職給付引当金	72,196	74,972
受入保証金	1,529,907	1,527,971
資産除去債務	290,000	290,000
その他	4,700	3,161
固定負債合計	2,290,554	2,252,354
負債合計	3,549,178	3,465,110

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年1月31日)	当第2四半期会計期間 (令和4年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,741,439	1,798,517
自己株式	△110,884	△111,080
株主資本合計	2,218,910	2,275,792
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,604	3,006
評価・換算差額等合計	2,604	3,006
純資産合計	2,221,515	2,278,798
負債純資産合計	5,770,694	5,743,909

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和3年2月1日 至 令和3年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年7月31日)
売上高	1,438,980	1,624,717
営業原価	1,198,254	1,379,090
営業総利益	240,726	245,627
一般管理費	147,507	143,901
営業利益	93,219	101,725
営業外収益		
受取利息	447	751
受取配当金	176	194
違約金収入	-	4,833
雑収入	16,715	1,000
営業外収益合計	17,338	6,779
営業外費用		
支払利息	4,267	3,530
雑支出	-	2
営業外費用合計	4,267	3,533
経常利益	106,290	104,970
特別利益		
休業等の要請に伴う協力金	※1 5,180	※1 20,080
特別利益合計	5,180	20,080
特別損失		
固定資産除却損	17,158	2,271
臨時休館に伴う損失	※2 27,189	-
特別損失合計	44,347	2,271
税引前四半期純利益	67,122	122,779
法人税、住民税及び事業税	23,349	39,331
法人税等調整額	△2,552	△1,516
法人税等合計	20,797	37,815
四半期純利益	46,325	84,963

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和3年2月1日 至 令和3年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	67,122	122,779
減価償却費	158,072	161,094
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	-	△91
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△400	△100
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	263	2,775
受取利息及び受取配当金	△623	△945
支払利息	4,267	3,530
休業等の要請に伴う協力金	△5,180	△20,080
固定資産除却損	17,158	2,271
売上債権の増減額 (△は増加)	34,674	-
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	-	24,923
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	2,829	△2,647
仕入債務の増減額 (△は減少)	20,245	17,762
未払金の増減額 (△は減少)	12,141	△36,839
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	6,973	88,985
その他	2,408	666
小計	319,953	364,085
利息及び配当金の受取額	607	957
利息の支払額	△4,261	△3,572
協力金の受取額	3,780	20,080
法人税等の支払額	△722	△37,779
法人税等の還付及び還付加算金の受取額	9,874	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	329,231	343,770
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△196,159	△113,932
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△183,339	△94,420
差入保証金の増減額 (△は増加)	17,536	△13,788
受入保証金の増減額 (△は減少)	20,834	1,407
その他	△29,619	△16,633
投資活動によるキャッシュ・フロー	△370,748	△237,367
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額 (△は減少)	100,000	-
長期借入金の返済による支出	△37,500	△37,500
配当金の支払額	△27,885	△27,885
その他	-	△196
財務活動によるキャッシュ・フロー	34,614	△65,582
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,902	40,820
現金及び現金同等物の期首残高	100,837	84,524
現金及び現金同等物の四半期末残高	93,934	125,345

#### (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用しております。収益認識会計基準を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-4項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症拡大は、依然として予断を許さない状況であります。このような状況が当事業年度(令和5年1月期)においても一定程度残るものと仮定しており、当該仮定を会計上の見積り(繰延税金資産の回収可能性、固定資産の減損会計等)に反映した結果、四半期財務諸表に与える影響はありませんでした。

なお、現時点で入手可能な情報に基づいて最善の見積りを行っておりますが、今後の実際の推移がこの仮定と乖離する場合には、当社の経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(四半期損益計算書関係)

※1 休業等の要請に伴う協力金

前第2四半期累計期間(令和3年2月1日から令和3年7月31日まで)

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた大阪府からの休業等の要請に応じたことによる協力金を、休業等の要請に伴う協力金として特別利益に計上しております。

当第2四半期累計期間(令和4年2月1日から令和4年7月31日まで)

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた大阪府からの休業等の要請に応じたことによる協力金を、休業等の要請に伴う協力金として特別利益に計上しております。

※2 臨時休館に伴う損失

前第2四半期累計期間(令和3年2月1日から令和3年7月31日まで)

新型コロナウイルス感染症拡大による政府の「緊急事態宣言」及びこれを受けた大阪府の「緊急事態措置」に基づき、「あべのアポロシネマ」ほか該当施設の臨時休館を実施しました。当該臨時休館中に発生した固定費等(減価償却費ほか)に臨時性があると判断し、臨時休館に伴う損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期累計期間(令和3年2月1日から令和3年7月31日まで)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	441,002	997,978	1,438,980	—	1,438,980
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	441,002	997,978	1,438,980	—	1,438,980
セグメント利益又は損失(△)	△14,250	254,977	240,726	△147,507	93,219

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期累計期間(令和4年2月1日から令和4年7月31日まで)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	565,743	—	565,743	—	565,743
ビル共益費等収入	—	197,089	197,089	—	197,089
娯楽場及びその他事業収入	57,412	12,509	69,921	—	69,921
顧客との契約から生じる収益	623,155	209,598	832,754	—	832,754
その他の収益	—	791,962	791,962	—	791,962
外部顧客への売上高	623,155	1,001,561	1,624,717	—	1,624,717
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	623,155	1,001,561	1,624,717	—	1,624,717
セグメント利益	21,967	223,659	245,627	△143,901	101,725

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。